

新潟市地域包括ケア推進本部 平成26年度 第2回本部会議

概要

【概要】

日時：平成26年10月6日（月） 午前9時20分～午前9時35分

会場：市役所本館6階 講堂

出席者：本部長，副本部長，本部員，オブザーバー

【会議概要】

■本部長あいさつ（篠田市長）

- 地域包括ケアシステムの構築に向けて，まだまだ市民への周知や仕組みを浸透させるまでには至っていない。
- 住み慣れた地域で安心して生活できる仕組みづくりには，地域での医療と介護の連携や施設や住宅の整備も必要となってくる。今までとは異なる視点で行動していく局面も出てくる。
- 従来，市町村は介護について中心にとらえており，医療は新潟県による広域自治体の取り組みとの考え方もあった。今後は，市町村も医療・看護と介護を一体的にとらえ，地域にどういう担い手がいるのかを考えて，行動していく必要がある。
- 地域包括ケアシステムは超高齢社会に備えた地域の新しい仕組みづくりとなる。非常に厳しい日程だが，本格スタートについて，今年度できる限り進められるだけ進んでいただき，協力をお願いしたい。

■議事／資料に基づき事務局より説明

- 「高齢者を地域で支えるモデル事業」は，平成27年度の介護保険制度の改正の中で，要支援者に対する予防給付の見直しを視野に入れ，生活支援に係るサービス拡充を目的としている。
- 要支援者の予防給付のうち，訪問介護と通所介護が市町村事業に移行することが予定されており，多様な事業主体として地域の住民団体やNPOが生活支援サービスを提供できる形態が盛り込まれている。
- 来年度以降は，基準や単価を示したうえで，「高齢者を地域で支えるモデル事業」を拡充し，平成29年4月を期限とした新しい総合事業への移行へ向けた準備を進めていきたい。

地域包括ケア推進アドバイザーについて

- ・福祉や医療の現場においてご活躍されている方々から実践面のアドバイスをいただいく。
- ・抽出される課題によっては地域包括ケア推進アドバイザーを増やしていく予定。
- ・まごころヘルプや地域の茶の間の創設者である河田珪子さんとは，高齢者支援コーディネーターの養成や地域包括ケア推進モデルハウスの運営について連携を取っている。

高齢者支生活支援コーディネーターについて

- ・地域資源の開発推進支援や関係機関のネットワーク構築を目的に各区に1名ずつ配置。
- ・選考は公募によりボランティアの活動や自治会などでの地域活動の実績を重視。
- ・各区のモデル事業への支援業務や地域包括ケア推進モデルハウスへの運営参加などの業務を始める。

高齢者を地域で支えるモデル事業選定状況について

- ・申込32団体の申請のうち27団体を選定。
- ・介護保険の制度改正後の新しい総合事業につながる見込み、継続性、発展性、住民組織による主体的な活動や実施地域の住民組織からの理解を得られるか、などを選定の基準とした。
- ・今後は各団体の事業計画を精査し、選定団体と市で委託契約を締結して、事業を進めていく。

地域包括ケア推進モデルハウスについて

- ・地域の様々な住民組織の団体から運営に参画していただく予定。
- ・地域包括ケア推進アドバイザーである河田珪子さんが「うちの実家」の創設や運営で培われたノウハウの活用と蓄積を行い、全市域への波及を図っていきたい。
- ・この地域包括ケア推進モデルハウスの運営についても新しい総合事業のスキームにのることを想定しており、公費負担は立ち上げ費用や活動に伴う間接経費として設定している。
- ・地域交流活動の場として「実家の茶の間」の開催するにあたり、平成15年から10年間東区で実施された常設型地域の茶の間の「うちの実家」の理念や方法の継承と具現化を図る予定。
- ・障がい者や子育て世代など広く多世代とのネットワーク構築も想定し、江口氏との共同事業も予定している。

■質疑応答など

- 「実家の茶の間」は月曜日と水曜日の開催を予定しており、その他の曜日で高齢者支援コーディネーターの研修を行いたい。
- 来年度以降の新しい総合事業での基準や単価の設定には、多くの労力が必要と考えており、事業者を含めた関係機関との意見交換を実施する中で、検討していきたい。
- 新潟市内でお亡くなりになる場所について、現状と粗い予測を内部で検討し、関係者の皆様との情報共有や意見交換を進めていきたい。